福知山ＡtoＺシリーズ「夜久野と漆ＡtoＺ」

発行日　2019年3月25日

制作　チームやくのうるし
東井美紗子　高島麻奈美　高橋治子
平岡明子　山内耕祐　山内麻美　吉川枝里香
小野田さやか 080-1452-3421

協力（写真提供）
黒岡豊
出水伯明
藤原進
斎藤株式会社

NPO法人丹波漆
福知山市 地域振興部 夜久野支所
福知山市 やくの木と漆の館

デザイン
藤井　麻

発行　福知山AtoZ研究室
（福知山公立大学　塩見直紀研究室内）
〒620-0886 京都府福知山市字堀3370

この冊子は京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金を活用して制作しました。

福知山ＡtoＺシリーズ

KYOTO FUKUCHIYAMA YAKUNO

夜久野と漆 AtoZ

YAKUNO to URUSHI

message

京都府の西側に位置する福知山市夜久野町は
周囲を700m級の山で囲まれた、風光明媚な土地です。
かつてこの地域の暮らしを支えてきたのは漆掻きでした。
わずかに熱心な漆掻き職人に引き継がれ、今も「丹波漆」の生産と
植栽を続ける職人が息づく、西日本では数少ない漆生産地です。

その貴重な技術と、漆のことをもっと知ってもらいたいー
地域と都市を繋ぐ観光施設「農匠の郷やくの」の中に
「やくの木と漆の館」ができました。
漆器にふれ、体験することで、漆がぐっと身近になります。

やくの木と漆の館を中心に、漆好きの仲間があちこちから集まって、
それぞれの仕事をしながら、作品制作や展示発表をしたりしています。

そんな私たちが日々感じている夜久野と漆をご紹介します。

about

夜久野おでかけ MAP

contents

A AMMONITE アンモナイト
B BORDER 県境
C CHILDREN 夜久野学園の子どもたち
D DOMESTIC 国産
E EXPERIENCE 体験
F FUKIURUSHI 拭き漆
G GENBUGAN 玄武岩公園
H HOTARU ホタル
I IJYU 移住
J japan ジャパン＝漆
K KAORI 香り
L LOSS むだにしない
M MOUNTAIN 山
N NOUSYOUNOSATO 農匠の郷 やくの
O OWAN お椀
P PLATEAU 高原
Q QUALITY 品質
R ROIRO 呂色
S SOBACHOKO そばちょこ
T TANBA URUSHI 丹波漆
U URUSHIKAKI 漆掻き
V VALLEY 谷
W WAZA わざ
X X （かける）
Y YAKUNO 夜久野
Z ZUTTO ずっと

アンモナイト

夜久野は3億年の太古の昔、海の底でした。ヤクノケラス・ヌカテンセ（新属新種）、ホランヂテス・ヤクノエンシス（新種）といったアンモナイト化石が発見されており、道の駅農匠の郷やくのにある夜久野化石・郷土資料館で見ることができます。今、漆とコラボ商品ができないか模索中です。

県境

兵庫県と京都府の県境に位置する福知山市夜久野町。西は朝来市、北は豊岡市但東町、南は丹波市青垣町と、三方が兵庫県に接しています。かつて多くの漆掻き職人は、夜久野だけでなく中国地方などに漆掻きに出稼ぎに行き、秋祭りに漆桶を担いで帰ってきたそうです。

夜久野学園の子どもたち

夜久野学園は夜久野地域にある小中一貫校。授業の中で漆の絵付け、漆掻き、漆の植栽を体験します。植栽した木が育てば、子供たちが20歳になる頃に漆掻きができるようになります。子どもたちと一緒に、漆の木も育っていくことを願っています。

国産

夜久野は現在でもウルシノキの植栽が行われている貴重な産地です。実は、国内で使われる漆の98%は輸入されたもの。国産漆を増やすために丹波の漆掻きさんたちは植栽地を耕し、ウルシの苗を作るところから頑張っています。

体験

やくの木と漆の館は全国でも珍しい、漆の体験施設です。その日に器を持ち帰れる型紙を使った簡単な絵付け体験や、何度も通って本格的な漆器を作る体験、金継ぎ教室、蒔絵教室などがあります。

拭き漆

一般的な漆塗りのイメージとは違った雰囲気ですが、木目を美しく見せる、漆塗りの技法のことです。採れたままの漆をすり込み、拭きあげて乾かす作業を何回も繰り返します。透けがよく、ツヤが出る丹波漆に合っている技法のひとつです。

玄武岩公園

夜久野町小倉地区にある、玄武岩公園。ほぼ36万年前に噴出した小倉溶岩の南東端付近を利用してつくられた公園です。柱状節理が見事に発達し、その上部には板状節理が見られます。(参考:夜久野町史)

映画撮影やGEN-BU-ROCKコンサートなど、イベント会場にもなっている隠れた見どころです。

ホタル

緑に囲まれた夜久野では、由良川の支流である直見川・牧川などの川沿いを中心に、ホタルがたくさん見られます。夜久野町大油子(オユゴ)地区、千原(チワラ)地区付近など、ホタルスポットがたくさんあります。

移住

漆を仕事にできるなら、と移住した人が現在9名夜久野に住んでいます。漆関係で移住したことのある人全てを合わせると12名になります。漆とのつながりが、地域との関わりの一つになっています。

ジャパン＝漆

かつて、小文字でjapan と言えば漆のことだと言われていました。現在では、Urushi という言い方で、世界に発信する機運が高まっています。漆は縄文時代から続いてきた日本が誇る文化。夜久野でも漆に関する古い文献が残っています。その歴史を絶やさずに大切にしていきたいです。

香り

丹波漆を塗るとフワッとただよう、少し甘いような、いい香り。その香りに初めて接すると、他産地の漆との違いを感じます。野菜や果物と同じように、漆にも産地によって個性があります。塗りの作業が嬉しくなる、そんな香りです。

むだにしない

漆液は、1本の漆の木から、およそ牛乳瓶1本分しか採れません。10年かかって育った漆の木から、わずかコップ1杯程度。漆掻きの作業を見聞きした方は皆、1回に採れる漆液の量が少ないことに驚きます。その年月と労力を無駄にしないように、大切に使いたいです。

山

夜久野町平野地区には、京都府唯一の火山、宝山があります。火山灰が降り注いだ夜久野高原は、火山灰の肥沃な土地に恵まれ、漆の木や作物がよく育ちます。近隣には漆苗木を育てる苗畑や、漆植栽地もいくつかあります。また、根菜類・黒豆の枝豆「紫ずきん」・夜久野高原ぶどうなど、様々な野菜や果物が育てられています。

農匠の郷やくの

「道の駅　農匠の郷やくの」は1999年にオープンした、温泉を中心とした観光複合施設。夜久野高原の美味しい野菜販売、地元の蕎麦やお食事、ガラス温室と美しい庭、和菓子、漆塗り体験工房など、いろんな素材が詰まった場所です。春はお花見、夏は夜久野高原まつり、秋には農林商工祭冬には新そばや雪見風呂が楽しめます。

お椀

漆といえばお椀と箸。近年、和食がユネスコ無形文化遺産に登録されました。日本の文化「和食」を支えているもののひとつが漆器です。やくの木と漆の館でも、椀や箸は記念品、注文品としても定番商品です。ケヤキやトチ、ミズメザクラなどの材でできた木地に、10以上の工程を経て漆が塗られ、仕上げられています。

高原

天気のいい早朝には夜久野高原に広がる雲海を見ることができます。霧の出る山々の景色は美しく、写真愛好家のテーマとなることもしばしばです。温度差が大きく、湿度も高い夜久野高原ならではの気候の中で漆の木も育ちます。

品質

国産漆の中でも丹波漆の質は透明度が高く、サラサラしているので少ない量でもたくさん塗ることができると評判です。

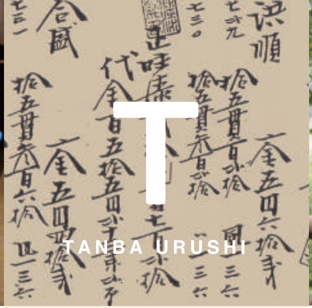
そんな丹波漆を使って、今までは無かった、夜久野ならではの漆器づくりを目指したいと思います。

呂色

色名で「呂色」といえば、黒漆の濡れたような深く美しい黒色のことで、蝋色とも書きます。上塗り仕上げのひとつである呂色仕上げは、炭研ぎ・摺り漆・磨きを繰り返し、最後は人の手のひらで磨き上げます。ちりや刷毛あとのない、鏡面のような漆黒の平面には、深みのある艶が表現されます。

そばちょこ

夜久野町の記念品、「長寿そばちょこ」として始まった、漆の館の定番商品です。そばちょことしてだけでなく、コップやフリーカップでも使え、お酒もちょうど1合入ります。羽反り型の口は飲みやすく、木製なので熱いものを入れても持ちやすいです。木と漆ならではの口当たりが好評の一品です。



丹波漆

丹波の漆の歴史は奈良時代の初期（約1300年前）まで遡ります。古来『丹波国』に属し、『夜久郷』あるいは『夜久ノ郷』とよばれたこの地域の暮らしを支えてきたのは漆掻きでした。江戸時代には福知山藩の政策として漆の育成が義務づけられていたほどで、採取された漆は「丹波漆」として京都や大阪に流通していました。

漆掻き

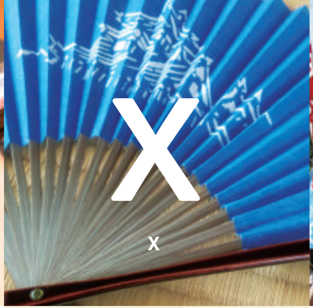
夜久野では、明治時代、約500人の漆掻きがいたといわれ、山陰、中国地方からの漆の集積地としても栄えました。その後産業は明治以降養蚕へと切り替わり、漆掻きは衰退の一途をたどり、戦後は転廃業がすすみましたが、わずかに引き継がれ、平成3年には「丹波の漆かき」として漆掻きの技術が、京都府無形民俗文化財に指定されています。

谷

谷ごとに集落があり、顔を上げると山の木々が目に映ります。植林された杉・檜の中の広葉樹が、四季折々の色彩を見せてくれます。山の上から棚田と対岸の家々を眺めると、不思議と広がりを感じます。夜は星が降り注ぐようにたくさん見えます。

わざ

1つの漆の器ができあがるまでには、たくさんのわざ・技術がかかわっています。ウルシノキを育てるわざ、漆液を採取するわざ、漆を精製するわざ、漆を塗るわざ。自然豊かな夜久野町は農業や林業、畜産業、加工業と、昔から伝わる技や工夫された技の宝庫です。



X（かける）

元々、夜久野の漆掻きさんは農家の副業、百姓×漆でした。現在も、漆に関わる誰もが漆×何かで暮らしています。福知山の伝統文化である丹波漆、丹後和紙、由良川藍の伝承者でつくる『福知山の伝統文化を守る会』では、和紙×藍×漆のコラボ商品が開発されています。

夜久野

京都府西北部に位置する福知山市夜久野町。人口約4,000人、町の東部に子午線（東経135度線）が通る「時の町」です。国道9号線が東西に伸び、その南側に沿って由良川につながる牧川が流れています。伝統行事が残る地域も多く、秋には奇祭と呼ばれる額田の祭りや天満神社の奉納相撲など、各地でお祭りが繰り広げられます。

ずっと

ずっと夜久野に丹波漆が残ってほしい。父親が腕の良い漆掻き職人だった衣川光治氏。「夜久野に漆掻きを残したい」とずっと言い続けた、一人の漆掻き職人の思いが今に繋がっています。

あなたも漆体験してみませんか

やくの木と漆の館で漆塗り体験や、NPO法人丹波漆の漆植樹祭「うえるかむまつり」が行われています。体験してみると、漆がもっと身近になります。夜久野に住む漆好きの私達に、ぜひ会いに来てください！

漆塗り体験のお問い合わせは…
やくの木と漆の館
京都府福知山市夜久野町平野2199
0773-38-9226

漆をしていたからこそ知った、夜久野町。

住んでみれば色んなことに気づきます。

自然の美しさ、人との関わり、地域の暮らしと行事。

これからも、

夜久野と漆をみんなでつないでいきたいと思います。